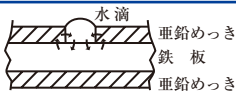


ガルバナイズ

- ◎ 英語で電流計のことを、ガルバノメーターといい、亜鉛めっきをガルバナイズといいます。ガルバンの語源は、電気が流れるという意味で、亜鉛めっきの特徴をよくあらわしています。
- ◎ 図のように塩水の中に鉄板と亜鉛板を入れると、鉄板には赤錆、亜鉛板には白錆が出て来ます。ところが、この2枚の板を電線でつないでおくと、鉄は全くさびません。これは電池と同じ原理で、亜鉛がとけることにより亜鉛→溶液→鉄→電線→亜鉛 と電気が流れ亜鉛が残っている間は電気が流れて鉄は溶けず、さびません。これを**流電防蝕効果**といいます。



- ◎ 電線でつながかわりに、鉄と亜鉛を密着(めっき)し、塩水のかわりには、めっきのきずの所に水滴がついたと考えると見ましょう。亜鉛→水→鉄→亜鉛と接続して電池となり、めっきのなくなるまでさびません。



- ◎ この作用は塗装や、ニッケル、すず、銅めっきなどでは全く期待できないことです。亜鉛めっきでも、その目付量がものをいいます。
- ◎ ネグロスの**第二種金属せんぴ**、**ダクター**、など溶融亜鉛処理鋼板製品は、 $381\text{g}/\text{m}^2$ という亜鉛目付量を誇りとしております。他社製品と御比較願います。